

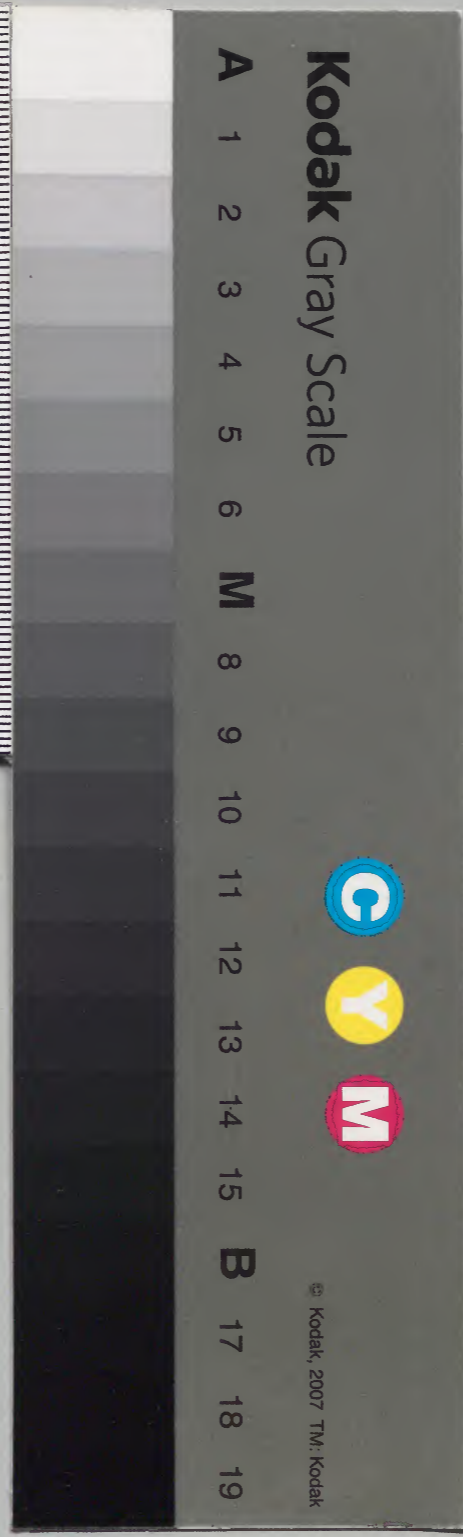
一言草

十九

和書門			
一八六八	二〇九八	二四	冊
號	函	架	冊
類			

內閣文庫			
一八六八	二〇九八	二四	冊
號	函	架	冊
類			

內閣文庫	
番號	和 18868
冊數	24 ( 19 )
函號	214 31



之曰然其草不取紅紫而取白古者以此指責  
松年其家又鎮其尾其各好書又其十使モウニ夕  
大原真作人妻活衣法長之立於在自然

梅香春風仙名菊花之玉露  
の字入るべ

六三二番

只誠藏

明治十三年購求

くまのふとむる文多きうまのふとむる  
くまのふとむる文多きうまのふとむる  
くまのふとむる文多きうまのふとむる  
くまのふとむる文多きうまのふとむる

吟道集巻の目録

みゆき文のしり多し船をうらあやま  
文多きうまのふとむる文多きうまのふとむる  
文多きうまのふとむる文多きうまのふとむる  
文多きうまのふとむる文多きうまのふとむる

諸事よりなる文章録り此録りゆきず讀べ





批言の善悪をあらざるむねがけり判り言葉句を吟  
味するなるは傳の十八ヶは要護はるひと云事なり

○定家卿式の内親王ト對ふせん中位と離くるる

るげくは邸のそのあえ道やなき君うつごの母のあを

は傳の又そのさるは事母の傳もかまつまのいを

ぬひぐはあを傳くきく介うそむべさす。そまあひ

そのあひさ心之入り之るをまをたれんはあはれ

親のいをま其のさるは母を母は思をのり傳は傳の

見入るもや傳のあはれは傳をるまといふまは

い言のあひさすこゝまのあはれを

○改人云たのむをる事まへのくはれはあひさす

其見極之る一者たるは内親王のあはれを見入る

は見入るもや傳のあはれは傳をるまといふまは

院のあはれをそのは傳は傳をるまといふまは

見入るもや傳のあはれは傳をるまといふまは

○此風のあはれをそのは傳は傳をるまといふまは

此風のあはれをそのは傳は傳をるまといふまは

なあはれをそのは傳は傳をるまといふまは

○海をそのあはれをそのは傳は傳をるまといふまは

はるは是れをそのあはれをそのは傳は傳をるまといふまは





尺三寸を拂ひの好む柳のほけとまけけおの家の子孫  
 を珍重ト云 流石をこそある柳をよほし家筋を玉座  
 いじが今い玉座とあやし 他野八尾用は記ト云 都あはせ  
 ○ 初書のお書なるまのさしじる初あはらるるぞや  
 さくじト云い今云ふすまの事ト云 禁中もくも賢聖は  
 障子荒疎に障ふるまを断ぬすまの又改後拾遺集  
 比社比詔公のひきは障ふるまの公はぐをるト云い今云ふ  
 續るはあはるるに是も公の流石なり  
 ○ 屏風はを一つト云 流石更なる新書形ト云い此  
 葉のあはるるに相思ふまは流石なるものなりト云

○ 天の陰謀の事と六帖

此れ天のゆかりとつらなるものも天の事なる言もえやい  
 けくこの天の陰謀は公言 唯今流石も海もあはるる  
 長た今もなりと流石をさすらまはるる知らする扇  
 子ト云 柳なるまの事と此れ天の事ト云い毎は流石なり  
 りまふまの事と云ふもの事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
 と天はよほし公言 其扇は比言も云ふれと云い此れ言つ  
 こと聞しや 柳の事と云ふもの事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
 公入今もあはるるまの事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
 是をまかりト云流石の事を今もあはるるもの事と云ふ事と云ふ事



此後毎日の新報を購ふ故に殿上は其の治なる其學藝所  
日多くなるもの之は死すまじし海より多く水を吞むと云ふ  
此器の事知代巻豊臣殿の伝を辨すつと乃新之抄物  
及もる諺の所み人の人禁中よりほえさる水吞むる事  
初學よまの集事此事よりそくさの吟遠より文也  
らうこの老路のみとてむさあけりより首筋をさめつ合  
るを初學大なる者此事と知るも其解しむし初學よ  
ゆ下界より古い古きを知るべし其はもと新の集事  
此事より古いもの調子し此を新の集事と解しむ  
其事此を解べししは公の事なり

○指貫ト云もの云はれは者より貴人乃其集事  
者なり此故に初ト云も人の事集事ト云禁中の  
物門より古い事ゆはりよりあり内り集事ト云は  
今初學の長巻なる事初集事ト云は初集事ト云は  
い初集事ト云は初集事ト云は初集事ト云は初集事  
事集事ト云は初集事ト云は初集事ト云は初集事  
是初集事ト云は初集事ト云は初集事ト云は初集事  
○初集事ト云は初集事ト云は初集事ト云は初集事  
かりの事集事ト云は初集事ト云は初集事ト云は初集事



辭の詠り事立なり乃善悪を了知する事也

○ 聖人の教訓のしるべき事多し其の教訓のしるべき事多し

はくは漢文の曲語の語一々見れば而して其の意あり

而の字の如くは其の上の字に於て其の意あり

ぐいぬなり。此の如くは其の意あり

と知る事多し其の語の違ふ而の字を二章の如く

はくは其の意あり。其の如くは其の意あり

此の如くは其の意あり。其の如くは其の意あり

此の如くは其の意あり。其の如くは其の意あり

此の如くは其の意あり。其の如くは其の意あり

此の如くは其の意あり。其の如くは其の意あり

此の如くは其の意あり。其の如くは其の意あり

此の如くは其の意あり。其の如くは其の意あり

此の如くは其の意あり。其の如くは其の意あり

此の如くは其の意あり。其の如くは其の意あり

此の如くは其の意あり。其の如くは其の意あり

此の如くは其の意あり。其の如くは其の意あり

○ 聖人の教訓のしるべき事多し其の教訓のしるべき事多し

はくは漢文の曲語の語一々見れば而して其の意あり

而の字の如くは其の上の字に於て其の意あり

ぐいぬなり。此の如くは其の意あり

と知る事多し其の語の違ふ而の字を二章の如く

はくは其の意あり。其の如くは其の意あり

此の如くは其の意あり。其の如くは其の意あり

此の如くは其の意あり。其の如くは其の意あり













世人の利子物に下は物と別なり

○ 伯夷の節を自ら老を去るを思ふの道なり

○ 人皇の諸君の會は本を以て本とする

○ 中世の情は自ら老を去るを思ふの道なり

○ 此の道は自ら老を去るを思ふの道なり

○ 此の道は自ら老を去るを思ふの道なり

○ 此の道は自ら老を去るを思ふの道なり

○ 此の道は自ら老を去るを思ふの道なり

○ 此の道は自ら老を去るを思ふの道なり

○ 此の道は自ら老を去るを思ふの道なり

○ 此の道は自ら老を去るを思ふの道なり

○ 此の道は自ら老を去るを思ふの道なり

○ 此の道は自ら老を去るを思ふの道なり

○ 此の道は自ら老を去るを思ふの道なり

○ 此の道は自ら老を去るを思ふの道なり

○ 此の道は自ら老を去るを思ふの道なり

○ 此の道は自ら老を去るを思ふの道なり

○ 此の道は自ら老を去るを思ふの道なり

○ 此の道は自ら老を去るを思ふの道なり

○ 此の道は自ら老を去るを思ふの道なり

起ガ番ク鳴又種云之音曲アルヲ屈轉ト云ナリ

○ 幽咽セル泉ノ流ト詩ニ 幽咽泉流氷下難

流ルヤリナル聲モナリ 又流ト云ハバハリト流ル聲ヲ

○ 無六識トハ耻ベキ人ニ耻ズ其用意ナキヲ云ナリ

○ 二層ハ兼トハ 二層ハ二重ナリ。二重ハ二重ノ塔ノ皆

何層ト云ナリ。○ 層 七層

○ 布施者ノ出スヲ 徹スト云 徹ニスルトヨリ

○ 僧之經ヲ始ルヲ 擲ト云 起リキヲ 備ニ當テ云ナリ

ナス。貞ナリ 又經始ヲモ イツストヨリ

○ 戸位トハ 空ニテ 位ニシテ 其ノ實ナキヲ 尸位ト云

○ 袈裟トハ 任任ズルヲ 物ノ汚ラセテ 他ノ僧ノ

トナレババツ云々 袈裟ノ汚ラセテ 他ノ僧ノ

○ 周忌ヲ 周忌トモ云ハレ 周忌ノ一カガリニ忌ナリ

○ 周忌ト云ハレ 周忌トモ云ハレ 周忌ノ一カガリニ忌ナリ

○ 和老同慶トハ 和老トモ云ハレ 和老トモ云ハレ 和老トモ云ハレ

○ 和老トモ云ハレ 和老トモ云ハレ 和老トモ云ハレ

○ 和老トモ云ハレ 和老トモ云ハレ 和老トモ云ハレ

○ 和老トモ云ハレ 和老トモ云ハレ 和老トモ云ハレ

○ 和老トモ云ハレ 和老トモ云ハレ 和老トモ云ハレ

○ 和老トモ云ハレ 和老トモ云ハレ 和老トモ云ハレ







○ 夢入心ユメノココロのぬれもかきぬれも皆みな乃すなはち和なごの解とるを  
○ 後のち初はつ伊い成なりが解とれ死しぬ

○ 解とれ事ことく心こころのつらさよふは業わざせりぬら松まつをたるたるた  
○ 心こころ比ひトハさうさうは事こと ○ いふ事ことトハいふ事ことト云いふふ

○ むねをさす事ことハ心こころをさす事ことハ心こころをさす事こと  
○ 五ご葉は新あらたれ中なかの海うみをたるた

○ 心こころをさす事ことハ心こころをさす事ことハ心こころをさす事こと  
○ いふ事ことトハいふ事ことト云いふふ

○ 又また解とれ事ことく心こころのつらさよふは業わざせりぬら松まつをたるたるた  
○ 心こころ比ひトハさうさうは事こと ○ いふ事ことトハいふ事ことト云いふふ

○ 世俗セコクの云いふ福ふく九くは法はふの如ごとく人ひとは云いふの如ごとく  
○ むねをさす事ことハ心こころをさす事ことハ心こころをさす事こと

○ 勝かちありて是こゝは是こゝなる事ことは是こゝなる事ことは是こゝなる事こと  
○ 蓋けし燕えん石せき海かい馬ばヲ以もつテ及およぶ婦ふノ行ゆきニ極ごくムル則すなはち

○ 胎たい産さんニ横よこ逆さかシ難がたナリト云いふ  
○ 天てん一いつ地ちニ人ひとノナリニテ九くナリ九くハハ云いふ

○ 一いつ日にちヲ主しゅルハ難がたナリ而しかも人ひとヲ主しゅルハ  
○ 故ゆゑ三人さんハ十月じゅうがつニシテ三さん度たびムルモナリ

○ 人ひとノ愛あいスル事こと其その子こ賢けん愚ぐノ異いハ有あリト云いふ  
○ 則すなはち若わかき人ひとノ愛あいスル事こと其その子こ賢けん愚ぐノ異いハ有あリト云いふ

○ 則すなはち若わかき人ひとノ愛あいスル事こと其その子こ賢けん愚ぐノ異いハ有あリト云いふ  
○ 則すなはち若わかき人ひとノ愛あいスル事こと其その子こ賢けん愚ぐノ異いハ有あリト云いふ

○夏ノ祭ヲ走南祭ニシテ夏ノ國ノ名ニシテ代ノ名ナリ

夏ノ祭ニ帝島封國ノ別ナリ皇王ヨリ十七王ニアルヲ

祭ト云々名ハ履祭ト云々祭ハ諺ナリ諺法ニ云

賊人多敷云々祭ト云々。夏ノ祭細野ノ牧野ニシテ

地ノ名ナリ遂ニ代トナリ細ノ名ハ辛トナリ諺

法云ク残義損善ヲ細ト云々世ニ祭細ト云々事モ

祭細ト云々二人ヲサシテキヤツト云々ナリ

○皇祖輕命 守死善道 孔聖ノ道

老サレテ一歳ヲニカケリ

○女感陽子春思ノ旨

男感陰氣他思也

○夏ノ祭ノ祭ノ名ナリ

○夏ノ祭ノ祭ノ名ナリ

○夏ノ祭ノ祭ノ名ナリ

○夏ノ祭ノ祭ノ名ナリ

○夏ノ祭ノ祭ノ名ナリ

○夏ノ祭ノ祭ノ名ナリ

○夏ノ祭ノ祭ノ名ナリ

○夏ノ祭ノ祭ノ名ナリ

○夏ノ祭ノ祭ノ名ナリ

○夏ノ祭ノ祭ノ名ナリ

○夏ノ祭ノ祭ノ名ナリ

○夏ノ祭ノ祭ノ名ナリ

○夏ノ祭ノ祭ノ名ナリ

○夏ノ祭ノ祭ノ名ナリ

○夏ノ祭ノ祭ノ名ナリ

○夏ノ祭ノ祭ノ名ナリ

○夏ノ祭ノ祭ノ名ナリ

○夏ノ祭ノ祭ノ名ナリ





● 暇のやまき毎の家の好想を 申す

● 樂書乃此を養のやるをせう 謝り

● 和訓英解ニ云くくちのいふに 抄をゆくは果え

● 眉身りおくく 垂身のくちの抄

● 後の河法を法物上人を 徳信傳の録り右系

● 権式及階信のくくせくく 人の直影を圓く

● 蓮花王院の 評書抄のくくくく せんせん

● 圓くくくくくくくくくく 又或く夜のくく

● と呼く日月端のくくく 傍の和歌

● 月うげくくくくくくくく 西へ行くをきき

● 茶師寺常たらく 是のくくくくくく

● 我は風をくくくく 物部のくくくく

● 伊達政宗の 山家のくくくく

● 山のくくくくくく 波のくくくく

● 又山家のくくくく くのくく

● 中くくくく 和道くくく 隣のくく

● 青柳のくくくく 毛刈えくく

● 春のくくくく 春のくくく 春のくく

● 同居ト云くくく 水糸のくく

● ちのくくく 春のくくく 風のくく

○松石は元ト云々云々云々

○五ふらぬり云々松花松子云々

○松石云々

○おれら云々松の子云々

○今川云々

○おれら云々

○松石云々

○おれら云々

○おれら云々

○おれら云々

○二月の松石

○おれら云々

○おれら云々

○おれら云々

○おれら云々

○おれら云々

○おれら云々

○おれら云々

○おれら云々

○おれら云々



儼然 ぼんやりとむその口はゆめ年 乙由  
 伎客 花の時 鏡よけをささるる方々 宗因  
 荒事 夕の影の又いぢがうやまの聲 其角  
 女房 磁器の響くもての音は 眞原 清彦  
 人形 燈籠や 諸人があはれも 池田 其角  
 鯉の俵の山吹の影は 知ぬらん 其角  
 すがたの響くもての音は 其角  
 舟天のちをせん 其角 杜若 白雲  
 簾の 一ひかりのささるる 其角  
 ニか月のあけみせのささるる 其角

和歌七長花物語

ソラソラ之影ひあがらぬ 語りよき事 其角  
 にはあはれも 其角の影は 其角  
 道垣の嵐たり 其角の影は 其角  
 又法座の影は 其角の影は 其角  
 海を渡る乃よき事 其角の影は 其角  
 或る字神の影は 其角の影は 其角  
 ちりりりるる 其角の影は 其角  
 其角の影は 其角の影は 其角  
 其角の影は 其角の影は 其角







兩邊尖リテ圓ナラス甲上隆起テ色青ク腹下  
白ク整齊青ク腹レハ紅ニ變ラス

○鱈 俗ニロフト鱈ニ 筑前ニテウニキウト吟ブ  
名藝ニテ鉢ゴト云 甲圓ニテ尾長ク形柄抄ニ  
似タリ大ナル者ハ僧家ノ持鉢ニ似タリ

○彭蠡 俗ニ備前ニテ唐人鱈ト云丹後ニモ多ク  
人家庭際ニ居ル甚名響色黄テ扁ナリ甲隆起ス

○招潮 俗ニ海鱈ト吟ブ海濱沙地ニ居メ居リ潮  
ヲ窺ヒ出テ小魚苗ヲ食フ形長ク甲厚ク長ク

○鬼面鱈 俗ニ島村カニ又武文鱈ニ平家鱈ト云

秦武文海王波死ニ其然者ノ化スル所ナリ狀甚怪

異ナリ眉目口鼻鼓上ニ歴ヒトメ具ル鱈草ノ中ニモ

○權劍 俗ニ片爪鱈ト吟ブ大坂ニテテボカニト云也

參鼎カ川ニテ田打鱈ト云ブ又鉄炮鱈トモ權劍ニ

二種有テ一足長クメ白色ナルヲ釣ツキ鱈ト云足ノ長キ

ヲ釣ツキ鱈ト云一整大ツノハサニホナリ故ニ鉄炮田

打ノ名アリ此物他ノ鱈ニ入ス捕ルモノ其色ヲ白ク

窺ヒ沙名ヲ以テ名ヲ填メバ迷テ所在所ヲ捕ル也

又一種ノ鱈アリ藝カカ狭島ニ釣ル頭カク整足

大ナリ形ニ用テ刺ルニ扁ニテ色白ク



○石蟹 俗ニ山蟹ト云 少カテ山巖石間ニ居ルモ也  
又蟹ニ似名石蟹ト云 石蟹ト云 俗ニ白石ト云 俗同ク物異ナリ

○蒼魚 即金錢蟹 俗ニ蟹ト云 備前小島ニ  
イヅクト啖又蜘蛛ト云 形蜘蛛ニ似テ甲圓ニ

隆起又蛤蚧ト云 此口ニ塩水ニテ焯リ  
食ヘシ クモヲサカニト云 右ノ豆カニ似タルユエナリ

○鬼獅 俗ニ鳥ト云 東南ノ海中ニタケクアリ  
千人程 以物カニ似テ足無ク殼甚固クカク出

シテ壓スニ破ル事ナシ 又千人尊一名千人摠ト云  
○蟹 蟹ト云 形也ニ似ナリ 江戸ニモ是有

○ワカロニ 俗ニワカロト云 若狭ノ海中 春夏海ノ風起ル  
時少出テ 波ニ隨ヒ起リ以テ水母ニ附テ人云

渡カニト云 東國南海ニモアリ 形扁ニテ甲隆起ス  
殼ニ扁足細長ナリ 殼内空居テ因ナシ

○團扇口ニ 俗ニ團扇蟹ト云 江戸ニ有 形圓ニシテ  
ワカハニ似テ甲隆起ス

○鏡頭蟹 此モノ 形カニナリ 甲圓ニテ硬ク老有  
形ニシテガウニ似テ

○寄居蟹 蝦スルニ此物尾張 參河ヨリ 亦有也  
尾張ニテゴウナト云 又依渡ニアリ 人ロニモリト云

塩ツクニメ遠キニヨリイセ形イセカ九イセ蟹ニシテ又軟イセアリ

○龍蝦 俗ニ伊勢蝦イセエビ又鎌倉イセニ上イセ七イセ云ナリ

○青蝦 俗ニ車クルマエビト云東南海中ニ多シ塩イセ中イセテ

熟スレハ色鮮イセ紅イセアリ殼軟イセニメ肉硬イセシ

○大脚蝦 俗ニ秋田蝦アキタエビト云備前ビゼンニテテニヨリエビト云

加易カヨニテ瀉蝦シヤエビト云一脚ハ大テ一脚ハ小ナリ大ナルモノハ

吹火筒フキヤスノ如ク長サ尺許アリ

○蟹蝦 俗ニ河蝦カハエビト云備前ビゼン因山イノヤマテ白シラク蝦エビト云又

乾メ他國ホニテニ送ル京都ノ人花ハナ鉦カネニ代ヘ食クフ又醬シユウ油ユニテ煮ニテ食クフ夏月ナツ盛サカリ取トルルナリ

○竹蝦 俗ニ聖田ホウデンエビト云又足長蝦アシナガエビト云

江五加加田カダ由ユヨリオナキ

ヲモニ六七月サバク盛サカリト有リ

○泥蝦 俗ニ泥ドロエビト云是レ料蝦リョウエビノ秋アキ盛サカルモノナリ

○苗蝦 俗ニ苗ササ蝦エビノ乾ホシタルナリ是レヲ美蝦ミエビト云安藝ヤマト

備前ビゼン俱トモニアリ又ニ種タネアリ一ハ脚カ屈カシ形カタ極キテナセ

味アジキクワシテ美ミナリ穴アナノ中ナカニト云ナ毒ドクアリ

○丹蝦 俗ニ大蝦オホエビナリ長サ一丈ノ者本邦ニモ有

千歳チザイ者ト呼余曾オノテ觀ミテ目撃メキス

○蝦蛄 俗ニヤヤクナケト呼コメ又マヤヤト呼コメテ云テ狀カタ蟹エビノ如ク

ノ如ク長ナガク二三寸塩炒シラニスルハ淡ワカ色イロニ變カヒス

○千人碎 俗ニシツギキト云 沖津大磯ニ是解  
 形雙如手 扁大キナリ長サ尺余 色青黄赤前  
 足扁頭僧帽ノ如ク西角耳ノ如ク 扁圓少シ  
 稜アリ又較長ノニ種アリ 尾卷テ腹下ニアリ 横  
 刻蛇腹ノ如ク 殼厚シメ腹ロクシニ種 筵短ナルアリ  
 牛杯ニ用ル ヲクリロシキリハ節チ此ノ頭骨ナリ  
 ○寄生蝦 按ズルニ是寄居蟲ノ類ナリ 拳螺ノ  
 殼ノ中ニ寄シ生ズルナリ  
 ○文略 俗ニ濱栗ト呼ビ殼ニ種ニ種 文有 アキ貝  
 靜耳ノ旨云 殼全ク紫黒色ノ者ヲ 油貝ト云フ

○蛤蜊 俗ニ朝鱈ハガリト云テウセニ因ニタシ故ニ  
 名ク紀島弱山ニテ真貝又真濱栗トモ云アリ  
 筑前福岡ニテ野比ノ粟ト云標加尾崎ニテ  
 甚石貝又大貝トモ 長崎ニテヤスヲ貝ト云  
 此物能ク能クニ舟ニ入ル 今甚石子ニ此ヲ用テ大サ人  
 ナル物ハ足ヲ施シ碟子ニ代用テ肉軟ニメ味ヨシ  
 ○此系口蛤蜊 俗ニ貫カカニテ シヤベリロト呼ビ殼ア  
 ツク大サ寸許リ唇ノ如ク紅暈アリ 紅ニテ粒カ  
 如シ故筑前ニテベニ貝ト云フ 阿波ニテ シヒト貝ト  
 云肉和トシ或ハ煮食フ味美ナリ

○赤蛤 スラワイウ 周防岩國ニ多クシ 海人アケ貝ト呼ガ 蛤ニ似  
テ殼ニ筋アリ 舌殼ノ外ニ出ツ

○蛸 コシ 和ニシバニト云 賢州金沢ニテスバメ貝ト  
呼ナリ 蛸七俗ニス、メ貝ト云 又蛸黄黒ノ三色有

泥水中ノ蒼ハ黒ク 清水中ノ者ハ黄ナリ 江戸川ニ  
多クシ 江戸加勢田上品トス

○蚌 俗ニ蚌又赤貝ト云 殼黒メ毛有 瓦甘耳ノ  
殻ノ如ク肉ノ色紅ク如シ

○宝丁 瓦壘ノホカ者江戶ニテ猿頬ト呼ガ  
備前ニテ灰貝ト云フ 以貝ヲ燒テ灰トスルナリ

○歸燒 俗ニ黒口貝ト云 佐渡人云イ貝ク名口一物  
黒口ハイ貝ノホカ者ナリ 名クナリ 泥中ニ有イ貝

ハ海ノ岩間ニ生ス

○淡菜 俗ニイノ貝比國ニテイ貝ト呼フ 毛貝比  
藝島廣島ニテ瀬戸貝ト呼 形婦人ノ陰戸

ニ似タリ 殼黒クメ厚ク 右殻ニ毛アリ 肉赤色味  
美ナリ 淡菜ヲミルクイト云ハヤナリ也 淡菜肉

中ニ斑アリ 卽尾張真珠是ナリ

○白蛤 俗ニ白貝ト云 丹後宮津ニテ文殊ノ  
ノ白貝ト云 形圓ク殼ニ横筋アリ 狀トカ貝ニ

似テ扁長ナリ味ヒナリ 佐渡ニテ餅貝ト云

○ 蠟ハ俗ニ音貝ト云 石磷亦雀貝ト云 蠟ハ總ノ

鋸名仙岩屋ニカクナリ 岩屋ニ貼ル状現ニ取テ

大ナリノ白色層生カニテ肉赤ト焼貝テ味美ナリ

○ 紅緑 櫻スルニ本郷 海栗ヲ以テウニト入誤ナリ海栗

ハ昂子紅緑俗ニ油貝ト呼フ 形圓ラ扁ナリ 波貝ニ似テ

油色ナリ 裏面鋸齒アリトナリ

○ 石磷 俗ニ雀貝ト云又雀貝ト云又磯貝ト云又子

鳥貝ト云 窺魚殼ニツキテ 生ズカニテ殼厚ク圓ニテ

中央色 諸色アリ 褶部黒点ノ者モアリ

○ 石葦 俗ニ桔梗貝ト呼又名編笠貝 佐渡ニテ

クメ貝ト云 命 必貝中ノ片貝 石磷ニ似テ大殻

サ薄ク皮有リ 橙葉ノ如シ五六出ノ者アリ 色瑠石

ニノ桔梗花ノ如シ

○ 馬口 俗ニトブ貝ト呼 命 蚌也 海中ノ蚌 真珠

ヲ含者モトブ貝ト云 同名異ニ産ナリ 馬口俗ニマ

鳥貝又ダブ貝ト云 鳥貝ハ小ニテ圓ク 鳥口ハ甚

大ニテ長シトブ貝ノ中一様細長ナル者アリ

○ 真珠 櫻スルニ真珠數種アリ 葦葉舖ニ在ル

者ハ伊勢尾張ノ二邦尤上品ナル者ハ肥前大村

海中ヨリ出ル胎貝ト云大サ不ニ摩子ノ如ク其光  
方四五寸ヲ照耀ス色淡紅テ桃花色ノ如ク番  
客高價ヲ以テ求ルモノ是ナリ

○蚌 上ノ貝ト云泥水此蚌ノ身ヲ石決貝ニ似テ皆銀  
色ヨリ殼ノ裏表ニシテ殻アリ表裏トモニ小珠ヲ含  
体ニ是ヲ真珠貝ト云

○膏藥盤 俗ニ脂曰貝ト云半片白ク半片赤シ  
故ニ名付ク如海鏡ヲクヒラギト云ハ誤リナリ又福  
島ノ海月ハ此クラゲナリト云

○海扇 俗ニ帆立貝ト云殼ニ竹柄ヲ施シ杓子トス

○西施台 俗ニ海行ト云筑前柳川ノ海中ニ多クアリ泥  
土中ニ生ス滑草ニ似テ殼青ク若長十五寸肉色黒ク

長サ三尺ニ及ラリ殼ノ外ニ出テ章下シトアリ  
○煙 俗ニ總角貝ト云竹煙ニ似テ殼薄ク兩頭  
圓白クシテ光リアリ

○竹煙 長サ寸許竹管ヲ切割花ガ如ク兩頭圓  
ナラス殼堅ク色青黄テノ老ナシ

○石煙 俗ニテ紀伊筑前ニ多クアリ紀品ニテ鳥貝  
ト云筑前ニテ石アリト云海岸ノ巖石ノ間ニ生ス其  
銘石ノ中ニ最多ト外ニ甲アリ實山甲ニ似テ鱗ノ如ク

○江瑤柱 俗ニタイラギト云 大和本草ニタイヒラギ田肉  
柱ナト是審ニ察セサルナリ

○牡蠣 俗ニカキト云 二種アリ 一ヲ鯨ノキト云 一ヲ海  
ノキト云 ヲキハ黄牡蠣ナリ 殼ニ圓尖ノ二種アリ

○江栲 俗ニメリハギト云 備前肥前及ヒ尾崎海  
中ニ多シ 備前ニテハ身ト云 形舟ノ栲ノ如ク 又人指申

或ハ梅花片ノ如シ 色緑ラニ尾ノ屬 白ニ肉 縫外ニ出  
肉大サ 蝦ノ肉トアリ 海人取テ 乾シ 或ハ殼トモニ塩  
藏ノ遠ニテ 若クアケラケドガル 酢ヲ食ニ 微毒  
有テ 足服ノ間ニ瘡ヲ生ズ メリハギノ形ノ如クナリ

○螺蛸 俗ニ川ヲト云 又轉メイナニ云 凡ニ云 又ニナニ

村落ノ渠中ニ生ズ 或人云 此物 蟹中ニ化ス 腐草ニ限  
今審ニスルニ石 鱗多ク 螢火ニ化ス 又味噌汁ニテ 煮食

ニ見物ノ痛ヲ治スルナリ

○田螺 俗ニ田ニシト云 水田ノ中ニ生ズ 狀梭螺ニ似テ  
小ニ肉中 珍ク食ムアリ 又肉ヲ而搗 泥ニ破石ヲ  
續ニ水クニテ 離レスト云エリ

○梭螺 即チ見弄玩スル所ノバイ也 吹螺ハ別ニ云

○吹螺 押石吹螺ハ 佛驗者ノ及軍中吹所ノ法

螺ナリ 法螺ノ名ハ法華經ニスルナリ

○流螺 俗ニ長ニシ又夜啼貝ト云凡ソ螺ノ特長ヲ  
流螺ト云 流ハ流ルノ象ナリ

○米螺 極ズルニ及螺ハ紀加ニテ米粒貝ト云形田螺ニ  
似テ至テハ長カキハシヨリ米粒ノ似テ河ニテトシ

生ス色白紫赤斑青黒一ナラズト云リ

○琴螺 極ズルニ 伊豫佐渡ニ多シ形干琴螺ニ似テ  
味辣ト食シヨシ故ニ苦螺ト云人溺ラテテ洗ハハ若シ

○鈿螺 俗ニヤサラト云貝ト云安藝ノ廣島ヨリ 形ハ  
圓扁ニテ厚シ一極老リ滑テ青紅暈アル者ヨリ

江ノヤサラト云螺鈿金鈿ノ用ニ云故鈿螺ト云

○拳螺 俗ニサバイト云ニ種有一ニ尋常ノ者ハ

厚ニ毛無シ佐渡ニテメクラサバイト云本朝ニ及螺  
ヲサバイト云ハ俗字ナリ

○鸚鵡螺 和ニ又アラハ貝ト云形踏船貝ニ似タリ世  
上ニ雲寶ニ九ツ貝ト云テ觀念者是ナリ九ツ貝ハ刻

イタラ貝ナリ鸚鵡螺ニアラズ

○相思螺 極ズルニ相思子一名即君子 俗ニカシラ又酢

貝ト云殼赤螺ニ似テ至ツテヤク世拳螺ニ似タリ其殼  
也尾崎人云ハ拳螺ニ似名貝アル刺ナシ生カハ暗ハ色黒  
ニ枯レバ白ニ變スル其殼ナリ 磯ニ酢ヲ入レ此層ヲ



函筒投ノ相對スレバ旋轉ノ一巡ニ合フ

○研螺 按ズルニ研螺俗ニツメタ目ト云越後新潟

ニテスリ貝ト云此貝ノ形圓テ厚トラス殼厚フレテ

肌コシロナリ口内ニ曲リテ底交ラス帷子襦袢紙等ヲ

指磨ニ佳ナリ又室所殿日記細川幽玄豊臣太

閤ノ前ニハレレシニ或大名ヨリ牡蠣生荒腸ツメタ

右三種ヲ敵ス太閤此ツメノ者ニ付テ一首セヨト有

幽齋舟ノスナハキドリハドリ

○ロキクラシフル白雪ノツメタサテ此ツメタテアタハガスル

太閤及ヒ満座大ニ感ゼケルトナリ

○馬蹄螺 四國海中ニ於テ俗ニ馬貝ト云又馬ノ爪

貝ト云又船貝ト云フ

○紅螺 俗ニ赤螺ト云太カニ種アリ殼ノ裏赤シ

○香箸貝 按ズルニ舟後切戸ノ海中一種ノ貝アリ色白

ク形箸ニ似テ長サ四寸内ニナリ殼クシクニ漂轉

ラレテ沙上ニテアリ即歌仙貝ノ中ノ香箸貝也揚枝貝也

○松ノ皮貝 牡蠣ノ皮ナレベシツツ貝 波間柏ニ似テ

○木葉貝 紫赤色貝厚シク岩貝ハ奇貝ニ似テ圓扁也

○孔雀貝 イ貝ニ似テ裏面アワビニ似テ赤アリ

○竹葉貝 寄居虫ニ似テ圓細長ク老リアリ

○ウツロヒ 鷄貝 後螺ニ似テ彫リ管ノ如キ紋アリ斑紋

○ウツロヒ 鷄ノ斑ニ似タリフチノ外ニ曲レルヲ大鼓貝ト云

○アサヒ 朝顔貝 形圓扁ナリ 弁及ヒ狀蝸牛ト同ジ

○イロ 色瑠ニモ老リアリ 牽牛ノ花ノ色ニ似タリ 甚美ニ

○タマシ 似但質薄ク脆ノ破シ空シ 紀品弱浦ニ多ク有

○マキ 卷貝 法螺ニ似テ較長也流アリ色黄テ白

○サンシ 山椒貝 紀品弱浦ニ多ク形至テハク甚山椒粒

○ニ 似皮ノ色赤ク紋文サシヨリノ皮ノ如ク

○ツバ 葛籠貝 竹屑目ニ似テ較長テ竹屑厚シ面赤褐

細横紋アリ裏表潔白ナリ

○イモ 芋貝 紀品弱浦ニ多ク狀里芋ニ似リ色赤褐也

○ツユ 雨踏貝 形圓小ニメ色銀ノ如ク透徹如ク一名玉貝ト

○ク 左々羅貝一名ニヤクニ貝ト云 佐々羅貝ノ轉訛也

○ク 關東海中及ヒ河波ノ海ニ多ク産ス狀扁テ淺

○ス 大ナル者ハ二寸ニ過ス質潔テ堅ク老アリ外黒褐色紋

○ス 脈文略ニ似テ内面瑣瑣ニテ紫暈アリ内四邊鐫刻有

○サ 相合メコレヲ摩レハ声ヲ成メ綿丈ノ如ク故ニ名ツルナリ

○キ キサゴ 即セト貝肥前ニテ是ヲ猫貝ト云

○チ 茶碗貝 弁大坂瓦海ニテ云鳥貝ナリ赤貝ニ似テ

○チ 殼薄ク表白汚紅州後宮津ニテ茶碗貝ト云ナリ

肉花蛤ニ似テ色黄ナリ正二月具肉ヲ酢ニ浸シテ京師ニ送り賣ナリ則酢ハ之ナリ也此貝鳩ニ化ス故ニ是ヲ鳥貝ト云其殼ヲ紙ヲ以テ張り中ニ砂石ヲ入揮テ小兒ノ玩モノトスルナリ

○藻ノアラ貝 水中ノサ藻ニアルカ貝ナリワレカラトハ異也形甚々トシ貝ニ似テ極テカシ青黒ノ紋有 後撰集ニ

○蓮ノ葉ノ上ハワレナキ下ニユツ物アラコイハツリト云ナレ

○鷄貝 極テ大圓シテ貝斗ノ如ク殼甚薄シ如事ノ上内ヲ透テリテ花瓶トス

○シトロ貝 法螺貝ニ似テ形長ク厚シ

○章魚船 形扁テ殼甚薄ク鸚鵡螺ニ似テ圓ナラス

角ノ肌細テ老ナリ甚美ナリ如事ノ上釣花瓶トス然レモ胎ノ破ヤス河内關所本草ニタノ子ノ圓アリ

○夜老 大坂藥舖ニ賣 青貝ノ下品老リ薄ク殼厚シ螺細匠コレヲ用テナリ

○文卷貝 丹後宮津ニ有 形長ク頭尾上下圓テ尖ラズ表ニ堅筋ヒトナリ色薄黄 白色 裏全ク紫色

○塩吹貝 殼ニ似テ大ナリ背隆起形圓シ尾崎海

中ニ多シ口邊細齒有 裏四邊皆紫ナリ殼面黄也

○ 梭貝 キコヒ 紀島弱瀬 ワカノ 西 シ 上 ウ 下 カ 二流 ニリウ アリ 機 ハカ フ

織 オリ 梭 シ 二似 ニニ テイル 故 コ 二梭 ニシ 貝 ニヒ ト云 ト 長 ナガ サ 三 ミ 四 ヨ アリ

○ 御巫蔓 ミユツル 丹後 タニ 海中 ナカ ニアリ 淡 ワカ 草 クサ ニ似 ニニ テ 殼 カラ 無 ナシ 外 ソト

○ 二毛 ニモウ アリ 石 イシ 崖 キサ ノ 間 マ ニ 聚 アツ る 石 イシ ロ ロ 開 ヒラ バ 陰 カゲ 戸 ド ニ 似 ニニ テ

○ 茗荷貝 ナリカ 一名 ナヒ サイ サイ イ イ ワリ 形 カタチ 廿 ニ 裏 ウラ 荷 カ 竹 タケ 似 ニニ テ 全 ゼン 身 シニ

○ 二魚 ニイサ 子 コ アリ 好 ヨク 事 コト ノ 靜 シズ 目 メ 貫 クワ トス 是 コレ 貝 ニヒ 類 ニヒ 非 ヒ ス フ ニ

○ フリ 齒 ハ フ 兩 フタ ツ 之 ノ 間 マ 名 ナ 多 タ ナリ

○ ヨ ヨ 在 ニ 四 シ 紀 キ 島 シマ 弱 ワカ 瀬 ノ 海 ウミ 二 ニ 多 タ 雀 スズメ 貝 ニヒ 形 カタチ ア ア フ フ 殼 カラ ニ

○ 知 チ ク 粘 ネリ ス 殼 カラ 薄 ウス ヲ 圓 マダラ 者 モノ ナリ 瘡 カサ 痕 アト ニ 似 ニニ テ

○ ア ア ヤ ヤ メ メ 貝 ニヒ 形 カタチ 色 イロ 全 ゼン ク ア ア ヤ ヤ メ メ 花 ハナ ニ 似 ニニ テ 色 イロ 此 ココ 多 タ ナリ

○ 初 ハツ 茸 タケ 貝 ニヒ 是 コレ 貝 ニヒ 非 ヒ 不 フ 海 ウミ 濱 ハマ ノ 石 イシ 芝 シ ナリ 裏 ウラ 切 キ レ テ テ 口 クチ バ

○ 色 イロ ナリ 甚 ヘタ 初 ハツ 茸 タケ ニ 似 ニニ テ ナリ 菊 キク 貝 ニヒ 形 カタチ 菊 キク ノ 花 ハナ ニ 似 ニニ テ

○ 田 チ 貝 ニヒ 即 スガ 米 コメ 螺 カタ ナリ 巾 キン 着 キ 貝 ニヒ 帆 ホ 立 タ 貝 ニヒ ノ 類 ルイ ナリ

○ 緞 キヌ 卷 マキ 貝 ニヒ 紫 ムラサキ 貝 ニヒ 二 似 ニニ テ 兩 フタ 正 マサ ヲリ 内 ウチ 正 マサ 向 ムカ テ 卷 マキ キ 片 カタ

○ 方 カタ ハ 卷 マキ キ 片 カタ 正 マサ ヲリ 身 ミ ナリ 九 ク 疋 フツ 貝 ニヒ 才 サ タ ラ 貝 ニヒ ナリ

○ 緞 キヌ 卷 マキ 貝 ニヒ 殼 カラ 薄 ウス ク 圓 マダラ 二 似 ニニ テ 端 ヘ 之 ノ 切 キ レ アリ 褶 ヒラ 色 イロ 外 ソト 赤 ベニ

○ 枕 マク 貝 ニヒ 緞 キヌ 卷 マキ 貝 ニヒ 二 似 ニニ テ 端 ヘ 底 ソコ 平 ヒラ ナリ 色 イロ 黄 キ 白 シロ ナリ

○ 山 ヤマ 鳥 トリ 貝 ニヒ 頸 ケ 貝 ニヒ 二 似 ニニ テ 尾 ビ 長 ナガ ク 首 カビ 細 ホソ ク 正 マサ 中 ナカ 張 ハ 出 デ ツ 色 イロ

○ 紫 ムラサキ 赤 ベニ 襦 ユ 袢 ハン 紋 モン ナリ 白 シロ 貝 ニヒ 石 イシ 貝 ニヒ ノ 曝 サ シ タ 丸 マル モ ノ 也

○ 之 コレ ヤ 言 イハ 貝 ニヒ 形 カタチ 極 タガ メ テ 大 オホ テ 圓 マダラ 也 色 イロ 紋 モン セ 貝 ニヒ 二 似 ニニ テ ナリ 大 オホ 古 コ

者七八寸色青縹紋アリ

○寒菊貝 ワカキ 弱浦ニ多シ 正中室空子 按全射白

○松寒菊 スサキ 如シ 又翠室ニ似テ 紋脈ヒ下付 曝貝也

○鳴戸法螺 ナリト 殼厚シ 螺脚ニ似テ キチ有 其間ニ

疣瘡アリ 廻リ付色赤白雜ル 鳴戸多ク 又弱浦ニ

○ヒラエ貝 ヒラエ 此貝多ク 至合ト云リ

○目弁貝 メヒラ 越中放生津ニアリ 十員也 殼外色白ク

横白文アリ 内面四邊淡紫色

○ワニ貝 ワニ 形圓大テ 疣瘡アリ 赤福紫色アリ

○アフリ貝 アフリ イ貝ニ似テ 扁テ 長カラシ 色白ニ

○鐘木貝 シメモク 此貝海名ノ上ニ著テ 生ズ 紀前ニ多ク 形下字

ノ如シ 大ナル 斬リ 尺許リ 小ナル 五寸外 アフリ貝ノ如ク

如ク 薄赤ク 形少シ 扁長シ 曲トリ

○羽笏貝 ハシ 即イ貝ナリ 羽貝ト一種カ 蟹貝 形同

○結貝 ムスフ 形草石盤ニ似テ 一葎ナリ 夫廣貝 帆ニ似

○ヤトリ干貝 ヤトリ 帆五員ノ赤色ニ染成ス 子ナリト

○淡羽貝 シロハ 則イ貝ノ赤ク 淡テス 一名 於貝 又名

○蓮貝 ハナス 片貝 法曝ニ似テ 横紋アリ

○キマクヨリ貝 キマク 編笠貝ニ似テ 色黒 淺黄 白斑アリ

○身無貝 ミナシ 子安ニ似テ 厚ク 遠シ

○濃貝 ニク 又バク貝ト

○白菊貝 白色圓扁ニテ紋ナシ

○駒ノ角 又駒ノ角ハ云々形細メ圓クサキ尖リ色

青白内空ナリ ○干イロ貝 絹巻ニ似テ紅色殼薄扁

○何時貝 佐渡 海名ノ上ニ生ズ 拳螺ノ初年如シ形

十圓ノ刺ナシ色青ニ塩水ニ入レハ揺動ニテ能行ク

○羽貝 ○若貝 ○巴貝 ○風貝 ○夷貝 ○錦貝 ○釜貝

○夕キ貝 ○八塩貝 ○鏡貝 ○塩津貝 ○ニル貝

○龜 本邦種類多シ 錢龜有至テホテセテ如シ

山龜 有り甚大四五尺 能及ニ登ル 海龜アリ今

京師 藥肆店ニ死セル大龜ノ殼ヲ收シ招記トスル

○緑毛龜 扱スルニ毛龜ハ紫上緑毛アリ 水中ニ浮ヘハ

毛茸々トメ色深緑テ青海苔如シ 水ヲ出シハ色變ズ也

山城嶺山ノ間ニアリ 然レニ稀ナリ 又東洋水ヲ以テ養フ

常ノ龜ノ背ニアリ 年月ニテ緑毛ヲ生ズ 俗ニテ龜ト云フ

○鼈 俗ニスツホレ又トコロト云 龜ニ似テ背ニ文理ナシ云

緑肉野ヲ食ム 又能今ヲ食フ

○元龜 スツホレニ似テ腹正黄色ナリ 人ヲ害ス事 鼈ニリ

長門ニ多シ 長門ニ多シ

○瑤瑤 龜ノ類ナリ 唐土ヨリ來ル 本邦ニ無シ 長門ニ多シ

龜一名鳥龜ト呼都アリ 形龜ニ似テ首鶴首ノ如シ

紫毛島ニ似テ甲置重ノ葉ノ如ク色黄ニメ斑々有

○貝子 俗ニ子貝ト云 又止葉身片形身無貝ニ似テ

両方ヨリ卷合ヘル口齒刻アリ 五色錦紋ノ者有是

貴ニ上古ハ是ヲ火テ金銀ノ付トス 珣ハ子貝ト云 白色

潔白ナル者ナリ 相貝經ニ十七種ノ貝子ノ名ヲ出スナリ

本邦十種ナリ有 錦紋ノ者ハ好事ノ上ニ宿ヲ度細ク

通ノ荷苞墜トス 又彦婦握レハ彦彦ジ易カシ

○海膽 俗ニ海丹ト云 雲丹 海粟ノ字ヲモテ之ニ

海粟リ 又蛤ノ黄黒色ナルモノナリ 生ナル者ハ殼ニ密

刺アリ 空殼ノ海水ニ漂轉スル者 刺現テ甲ニ似テ

殼ニ似テ甲貝ト云 阿波ニテ 沖ノクニスト云 海膽佐酒

ニテロゼ貝ト云 ロゼハ海膽ノ古名ナリ 催鳥樂ノ歌ニ云

之サロナニハ何ヨケレ。アワヒ。サタヲロ。ロゼ。ヨケレト云

海膽ノ醬油ハ越前ノ最トス 遠方加荒草ニシテチロゼ

云テアリ 形雲丹ニ似テカシ果ナリ

○石橋 俗ニ江戸品川ノ海中ニテ 海胆ト云 海膽

ニ似テ殼圓テ脆ク外ニ毛アリ 靑紐ノ如キ者ヒラクトシ

海水ニ浮グ人ノ足聲ヲ聞クハ則チ宿ヲ入ルナリ

○沙節 蟹ノ如ク本昔 海邊ニシテマヤキト云テ有

白色長サ三尺細柳條ノ皮ヲ去リ名カカリ肉外ニ貼

ス人ノ足音ヲキケバ沙中ニ縮ル又タラノ鞭ト云テ有

○海蟹 俗ニ海々ト云此者海中泥ノ中ニ生ズ

狀如野人如之甲アリ 佐渡ニテ翁背ト云モナリ

泥筆 海泥ノ中ニ生ズ形大ニ三寸ニ至ス縦筋アリ

日一第ノ二横ニクリノ有螺脚ニ似テ色薄赤ニ

海蛇 是歌仙貝ノ濱カツラ是ナリ鎌倉ニ蛇

貝上カ大森ヘシテハヒ貝ト云

○海燕 俗ニ章魚概ト云敦貨ノ渡ニテナリ

ト云形楓葉ニ似タリ圓ヲ輕尾微細毛アリ者ナリ

俗ニ首魚ノ浮水ト云尾崎 海濱沙地ニ多ク是有

